

2020 年度ゼミ (4001 演習 3A/4002 演習 3B) 要覧

担当者名	岩村 英之
演習テーマ	経済学・統計学を携えて社会に出よう！
内容 と 卒業論文の 指導方針	<p>演習 2A/B に続き、ミクロ経済学と統計学を勉強していきます。さらに、演習 3A/B ではそれらを駆使して自らの問いを考察し、ひとつの論文の形にまとめる一連の流れを経験してもらいます。</p> <p>なお、卒論で取り組む問いは典型的な経済問題である必要はありません。文化や歴史、(経済以外の) 社会に分類されるような問題であっても、「需要と供給」、「均衡」、「資源配分」、「インセンティブ」といった経済学の概念・分析道具を用いて考察することは可能です。本ゼミでは、経済学の方法を重視します。</p> <p>卒業論文は、あくまで学術論文への橋渡しと考えています。従って、卒論指導においては以下の基準を重視します。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分の問いに関連する既存研究 (評価の定まったものだけでよい) を理解し、自分なりの言葉・文脈で整理できているか。 (2) 自分の論文の意義を、既存研究との関連において主張できているか。 (3) データや既存研究を用いて論理的に仮説の検証を行っているか。 <p>意外にも、他人の研究を探し出し、そして理解することが自分の論文作成作業の多くを占めることになるでしょう。</p>
メール・アドレス	iwamura@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	メールでご連絡ください。
授業概要	<p>近年、「市場」に対する強い批判を、特に経済学以外の分野から耳にする機会が多くなりました。一方で、市場を排して全ての経済活動を賢人による計画に基づいて権威的に組織すべきだ (= 計画経済, 社会主義経済) とまで言う人は、さすがに見たことがありません。確かに、市場は時に極端な貧富の差を生み出したり、自然資源の過剰利用を引き起こしたりしますが、それでも市場の調整能力は絶大で、私たちはそれに頼らざるを得ないので、重要なことは、市場のよい面を生かしつつ、負の影響を抑えていくことです。</p> <p>政治の世界に目をやると、同じテーマ (たとえば非正規労働) を巡っても規制緩和 (もっと市場に任せよう) と規制強化 (もっと市場を抑制しよう) の両方の主張が対立しています。どこまで市場に任せるかについて、冷静に議論し、コンセンサスを形成していくことが求められています。</p> <p>本ゼミでは、マンキューの教科書によって (1) 市場がどのように経済活動をうまく組織するのか、(2) どのようなときに市場がうまく機能しないのか (結果としてどんな悪いことが起きるか)、(3) そのような時にどういった政府介入が市場をうまく補完するか、といったことを経済学の観点から学びます。市場のはたらきと限界を理解したうえで、市場に対する態度を</p>

	決められるようになりましょう！
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市場の機能および限界と経済学の考え方を理解し、(経済)政策をめぐる議論を評価する土台を養う。 ・できる限り数字によって議論する方法を習得する。少数の、しかし印象深い事例に惑わされないように。
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 第1回卒論の中間報告 (1)</p> <p>【第3回】 第1回卒論の中間報告 (2)</p> <p>【第4回】 外部性 1</p> <p>【第5回】 外部性 2</p> <p>【第6回】 公共財と共有資源 1</p> <p>【第7回】 公共財と共有資源 2</p> <p>【第8回】 税制の設計 1</p> <p>【第9回】 税制の設計 2</p> <p>【第10回】 生産要素市場</p> <p>【第11回】 勤労所得と差別</p> <p>【第12回】 所得不平等と貧困</p> <p>【第13回】 情報の経済学</p> <p>【第14回】 第2回卒業論文の中間報告 (1)</p> <p>【第15回】 第2回卒業論文の中間報告 (2)</p> <p>【第16回】 ガイダンス</p> <p>【第17回】 第3回卒業論文の中間報告 (1)</p> <p>【第18回】 第3回卒業論文の中間報告 (2)</p> <p>【第19回】 第4回卒業論文の中間報告 (1)</p> <p>【第20回】 第4回卒業論文の中間報告 (2)</p> <p>【第21回】 第5回卒業論文の中間報告 (1)</p> <p>【第22回】 第5回卒業論文の中間報告 (2)</p> <p>【第23回】 卒論の形式についての諸注意</p> <p>【第24回】 第6回卒業論文の中間報告 (1)</p> <p>【第25回】 第6回卒業論文の中間報告 (2)</p> <p>【第26回】 第7回卒業論文の中間報告 (1)</p> <p>【第27回】 第7回卒業論文の中間報告 (2)</p> <p>【第28回】 予備日</p>

	<p>【第 29 回】 卒論最終報告(1)</p> <p>【第 30 回】 卒論最終報告(2)</p>
予習	春学期は就職活動と同時進行になりますが、ゼミでカバーする部分を少なくとも 1 回は通読してくるようしてください。卒論報告の回は、事前に報告者とテーマをアナウンスするので、質問・コメントできるよう準備してくるようしましょう。
復習	ゼミの後に、その日の内容を evernote やブログなどに自分なりに整理しておくといいでしょう。書くことで、理解したことが定着します。また、いまだに理解できていないことも明確になるでしょう。ゼミ後の昼休みにゼミ生どうして議論するのもよいでしょう。
授業に関する注意事項	ゼミと卒業論文とは別の単位になっています。したがって、卒論を書くことは演習 3A/B の単位認定のための必要条件でも十分条件でもありません。卒論を書くことで卒論の単位が認定され、演習に参加して相応のパフォーマンスを残すことで演習の単位が認定されます。
教科書	<p>[1]マンキュー（足立他・訳）（2013）『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』東洋経済新報社。</p> <p>[2]明治学院大学教養教育センター『アカデミックリテラシー ハンドブック』各年版。</p>
参考書	<p>[1]神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社。</p> <p>[2]酒井聡樹（2007）『これからレポート・論文を書く若者のために』共立出版。</p>
成績評価の基準	発表内容と議論への参加（50 パーセント）、および各学期 1 回の卒論に関するタームペーパー（50 パーセント）で評価します。
関連 URL	http://hide-iwamura.sakura.ne.jp/website/
備考	演習 2 の時点で 16 名が在籍しています。他ゼミへ変更する人が出ない限り、新規での受け入れは難しいとご理解ください。